

対人コミュニケーション

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：必修 履修年次：1 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：教授・岡田実

科目担当者（職位・氏名）：

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：14

■ 授業概要

学生生活上及び医療従事者の基本的能力として、会話と文章表現を通じたコミュニケーション・スキルを向上させる基本を修得させる。コミュニケーションとは何か、コミュニケーションを成り立たせるさまざまな要素、コミュニケーションの多様性、治療的・非治療的なコミュニケーションなどを学ばせ、医療現場におけるコミュニケーションの重要性を理解するとともに、治療や看護を患者に届ける道具としてのコミュニケーションのありようを修得させる。

■ 到達目標

1. コミュニケーションの本質を理解できる。
2. 治療的及び非治療的なコミュニケーションを知り、活用できる。
3. 1対1及び1対グループメンバー間に望ましいコミュニケーションを知り活用できる。
4. プロセスレコードを通じて、コミュニケーションが展開されている場面を想像できる。

■ 教育内容

科学的思考の基盤、人間と生活・社会の理解

■ キーワード

コミュニケーション 治療的 非治療的 対象特性 プロセスレコード

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	コミュニケーションの本質	コミュニケーションの成り立ちや定義について・講義	岡田
2	コミュニケーションの技法 非治療的なコミュニケーション	コミュニケーションの非治療的な具体例と非治療的であることの根拠・講義	岡田
3	コミュニケーションの技法 非治療的なコミュニケーション①	コミュニケーションの治療的な技法の具体例と非治療的あることの根拠①・講義	岡田
4	コミュニケーションの技法 非治療的なコミュニケーション②	コミュニケーションの治療的な技法の具体例と非治療的あることの根拠②・講義	岡田
5	対象に応じたコミュニケーションの技法	対象を考慮したコミュニケーションの多様なありようについて・講義と演習	岡田
6	医療従事者間のコミュニケーション	治療契約や組織上の立場に応じたコミュニケーションのあり方・講義と演習	岡田
7	プロセスレコードの書き方・読み方	コミュニケーションを通じて色々な気持ちや動きの様子を理解する・演習	岡田
8	配布された資料をコミュニケーションのありようから考察する	プロセスレコードとして提供されたコミュニケーションの分析と解釈・演習	岡田

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

授業中のプレゼン内容 10%、テスト 90%

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・テストの評価点は、希望者に対して研究室内でフィードバックする。

■ 教科書

講義用スライド及び資料は Google Classroom より配信する。

『デジタルナーシング・グラフィカ』メディカ出版のコミュニケーションに関連する項目（基礎看護学、小児看護学・精神看護学・老年看護学・緩和ケアなど）

■ 参考書・参考資料等

- ・アーネスティン・ウイーデンバック他著、池田明子訳（2007）『新装版 コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵』日本看護協会出版会 など。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

Google Classroom から配信されたスライドなどの資料を読むこと。詳細は授業にて指示する。

■ 担当教員からのメッセージ

普段、友達や家族と交わしているコミュニケーションを振り返りつつ、それらとは異なった医療専門職として必要なコミュニケーション技法を学び、今後、同級生との付き合いやグループ活動への参加や発言の仕方、ひいては臨地実習に必要な基本的なコミュニケーション・スキルを学びます。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 18、mokada★iwate-uhms.ac.jp、Tel 019-601-8571、オフィスアワーは特に定めませんが、事前にメールで日程調整のうえ研究室を訪問してください。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

医療機関での看護師業務の経験を活かし、精神看護学に関連する専門的で実践的な講義と演習を行います。